

④ 原発事故による甚大な被害

美しい自然の里山に残る誰もいない人家、車
 原発事故の被災空間の広さを実感するとと
 もに、住むところを奪われ、家族が離散し
 てしまったお話や「無意味な餓死や殺処分」を
 牧牛 400 頭のお話などを聞くと原発事故に
 よる甚大な被害に胸が痛む。



【南相馬市小高地区商店街】

また、常磐線小高駅横の自転車置き場に 100 台
 以上の自転車が 3/11 以来置かれたままになってい
 るのも、つらい光景であった。



【小高駅前の自転車の群れ】

(T. A)

「金曜日は官邸前へ」 —再稼働反対集会に参加して—

参加者で埋まる歩道と車道の間は鉄柵で分けられ、鉄柵のない箇所は機動隊の
 輸送車が寸分の隙もなく並んでいる。警察が最寄りの「国会議事堂駅」に出口規制
 をかけたが、人々は切れ目なく押し寄せ。ベビーカーでの若い方も多く、若い警察
 官は親切である。彼らの胸中はいかばかりか。

「再稼働反対、再稼働反対…」目にうっすらと涙を浮か
 べて財務省に向かって叫ぶ女性。栃木から来た 50 代
 の主婦とのこと。「学生時代の仲間もこんな日本になるとは
 思っていなかったはず。彼らもあそこ(霞が関)に入ると国民
 の声を聞く耳を持たなくなる。原発はゼロにすべき。核
 のゴミを残して死んで行くわけにはいかない」。彼女は今にも泣き出しそうな顔で話
 してくれた。この国民の願いが政府に反映されないもどかしさ。チャンスは選挙だけ
 か。賢明な市民でありたいと思う。



官邸前の集会を恒例行事にまで押し上げた主催者「首都圏反原発連合」と「再稼
 働反対！全国アクション」等の協力体制に今日も感謝しつつ帰途についた。(M.S)

DVD紹介 次の2作品は去る 10/24 に私たちの会主宰で上映会をしました。
 他にもたくさんあります。またお知らせします。

- ★「フクシマの嘘」(原題:Die Fukushima Luge) (ドイツ国営放送 2012/3/8放映)
- ★「10 万年後の安全」(2010 年パリ国際環境映画祭グランプリ) 他賞多数)

今こそ 声をあげるとき 「原発はいらない!! NO NUKES!!」 今こそ 行動するとき

3/11 から 1 年 8 か月余り。“収束” どころではありません。問題
 山積です。被災者の生の声、被災地をたずねた人の生の報告をお
 届けします。故郷に帰れない、まだ苦しんでいる人がたくさんい
 るのに“再稼働”なんて、心をふみにじることはありませんか。



成城・祖師谷地域「九条の会」



帰りたい かえれない

2012/12/3

祖師谷三丁目在住・Y子（87歳）

原発事故の翌日の午前8時に、福島県楡葉町より避難命令が出て着のみ着のまま避難所に行きました。4日間過ごしましたが、寒さと冷たい食事に加えて睡眠不足のため85歳の身にはこたえました。東京の世田谷に住む孫のところへ行くことになりました。腹痛と便秘の苦しさに加え、置き去りにしてきた家のことが心配で身も心も弱りはて、車の中では半病人のような状態でやっと世田谷に着きました。

孫は大学生で6畳のアパートに住んでいました。そこで孫・娘・私の3人の生活が始まりました。2ヶ月ほど経つと孫はストレスのため円形脱毛症になり、2部屋のアパートに転居しました。楡葉町に生まれ育った私は見知らぬ土地で暮らす生活になじめず、頭の中は固くなり胸にも何か詰まっているような感じで、毎日気分が悪く、寝ることが多くなりました。東京に来て3月17日の夜と7月31日の2回、救急車のお世話になりました。自殺する人の気持ちが初めてわかりました。そんな時横川さんにお会いして、地域の高齢者の集まりの“月よう会”に入れていただきました。皆さんとお話ししていると、気持ちが晴れて正気を取り戻したように元気になりました。そしてすっかり気持ちが落ち着きました。

そんな時、高井戸の都営住宅の入居が決まりましたが、転居するとストレスをためてまた救急車のお世話になるのではと思い、祖師谷の地を離れることはできませんでした。その後住宅補助費7万5千円の件では、“月よう会”の方々に何度も区役所に足を運んでいただき、不動産屋とも交渉もっていただきましたが、行政の壁は厚く今も補助費は出ていません。

被災者に渡る援助も福島の避難所に居ないことで放置されたままの状態、今に至っております。精神的な面では“月よう会”の方々に支えられ今まで何とかやってきましたが、先々のことを考えると目がくらむような不安に襲われ、死んでしまいたいという思いがよぎりつつも、とにかく生きています。

「かえりたい、帰りたい」という想いを込めて作った被災者の作品

◆支援

・200万円から300万円の支援金と仮設家賃無料の支援はあるが、60歳以上は銀行から金は借りられない。持たない層への対応が必要だ。

◆仮設での生活

・仮設に入っている人たちは早く自分の家に住みたい。瓦礫（の処理）よりも家を早く建てて欲しい。

<被災者との交流、現地の方の被災状況のお話から感じたこと>

① 「人間復興」と「草の根」運動

被災地の「人間復興」のためには「地域が再生するための復興ビジョン」とそれらの一つひとつを実現するための「草の根」運動が大切であること痛感した。

地域の商店街の復興に尽力されている気仙沼坂本さんが、仮設店舗での事業再開のために行政との折衝や事業主との話し合いに奔走され、仮設2店舗からスタートして54店舗に増やし商店を再生させていくところのお話は「草根の運動」そのもので、行政への要求実現や地域を再生させるためには人間の連帯と運動が希望をもたらすことを思い知らされる。

② 被災時における命を守る分岐点

防災リスク管理への意識や日常行動での違いからくる被災の分岐点があることのお話が印象に残った。

二つの小学校の犠牲者数の違い(100人中70人と280名中7人の犠牲者)、いつものような津波との思い込み、お年寄りを先に避難させたが介護用おしめを取りに帰宅して犠牲になった方などのお話では、地形とは別に津波にたいする日頃の危機意識の強さの違いや日常生活での行動の習性にも被災の分岐点があることを知る。

③復興作業の遅れ

防潮堤建設は国が決めることになっているが建設位置が決まっていないため町づくりが決められない状況にあるお話や、スーパーの営業再開のスピードの速さを聞いたが「瓦礫がなくなっただけです」の発言は復興対策の遅れを一言で象徴している。

(次ページに続く)

国としては絆とか、支えあいとか、美しい言葉を並べていますが、私個人としては腹立たしい限りです。選挙戦たけなわ、党首会談を聞いていても何となく空々しいのは帰りたくても帰れない避難者のひがみでしょうか。原発を再稼働すればまた私たちのように家に帰りたくても帰れない難民が日本中にばらまかれることでしょう。安全神話はまゆツバです。最後にひと言、憲法九条は命がけで守らなければと思います。

岩手県宮古市の震災被災者からの手紙 2012/11/24 (R.H)

3代にわたってそば屋を営業してきたが今回の震災津波で家と商売道具を失った被災者の声を手紙から紹介します。震災から1年8ヶ月たった現在の心境が綴られています。

宮古では、仮設住宅に被災者を入居させてから表だった動きがないような状況です。堤防、土地の嵩上げ、高台への移転、水門の話、都市再開発計画、災害公営住宅等いろいろな問題があるのに一向に見えてこない。住民に意見の聞き取りはするが方針が出てこない。市が決めるのか、県か、国か、強いリーダーシップを持った人材が居ないのではないかと疑う気持ちになります。説明会に行っても当たり障りのない、住民の意向、考えに沿う話に終始して、失望して帰って来ます。補助金の制度にしてもハードルが高過ぎるのではないかと考えています。

『対岸の火事』とはよく言ったものです。今の被災地は、この一言に表されているような気がします。・ ・



【当初自宅の2階で寝泊り、飲食は避難所】



【自宅付近は流出物が堆積】

東北復興支援・視察ツアー報告

— 陸前高田市でのお話とツアーに参加して感じたこと —

岩手県陸前高田市の旧市役所前で震災語り部新沼さんからの被災状況などについてのお話 (2012/11/2)。 主な内容は下記の通り。

◆被災状況

- ・当時旧市役所には300名の人たち、16mの津波にのまれて106名の方が亡くなった。陸前高田市全体では1,600名が死亡、220名が未だ不明。



【旧陸前高田市役所】

◆避難

- ・陸前高田市では11ヶ所の避難所があったが今回10ヶ所が被害を受け避難所としての機能を果たせず犠牲者をだした。
- ・地元スーパーでは、地震発生時に避難所ではなく高台に逃げろとの指示と行動で犠牲者をひとりも出していない。またこのスーパーは被災後従業員を一旦解雇したが1年3ヶ月後には全員を再雇用した。行政の復興対応スピードとの大きな違いをここに見る。



【旧陸前高田市の役所近辺】

◆教訓

- ・地震のときは高台に逃げろ、人間のつくるもの（防潮堤など）には限界がある。防災意識に限界はない。情報は過信するな、疑え。

◆復興

- ・震災後、1年7ヶ月たったがまだこの体たらくだ（旧市役所一体の瓦礫は排除されているが広大な何もない広場となっている）。幅12mから16m、長さ85mの防潮堤の計画は（防災に役立つかどうか）信用できない。8mから10m土地をかさ上げして復興する計画があるが進んでいない。
- ・2000戸仮設住宅に入っている住民の平均年齢は60歳後半である。早く復興して欲しい。
- ・破壊された建物などすべてをこわして取り除いているが残してメモリアルとして見てもらうことも必要ではないか。